

少雨に対する農作物等技術対策

平成28年8月10日
農政部経営技術課

平成28年8月9日宇都宮地方気象台発表の「少雨に関する栃木県気象情報第4号」によると、「栃木県では、5月中旬頃から降水量の少ない状態が続いています。この状態は、今後10日間程度は続く見込みです。農作物や水の管理等に十分に注意してください。」とある。

そこで、今後も降水量が少なく農作物に影響がでるような場合には、以下の対策を実施し、少雨による被害防止に努める。

なお、現在、渡良瀬川流域で10%、利根川（鬼怒川）流域で20%、那珂川水系（深山ダム）では50%の取水制限がそれぞれ実施されている。地域の話し合いによる番水等、水事情に合わせて効率的な利水に努める。

1 普通作物

(1) 水 稲

○ 早植栽培

出穂期・開花期は最も水を必要とする時期なので、その時期は水が不足しないよう、こまめな間断かん水を行う。

○ 普通植栽培

間断かん水を継続し、根の活力を維持する。

(2) 大 豆

- ・ 土壌乾燥の影響で莢数減少が懸念されるため、暗渠が施工してある水田では暗渠を閉める。
- ・ 10日以上晴天が続き、頂小葉が立ち上がり反転して見えたら、畦間かん水を行う。
なお、排水性の悪い圃場では湿害発生の危険があるので、かん水は行わない。
- ・ かん水は、気温の低い時間帯に短時間で行い、ほ場全体に水が行きわたったら速やかに排水する。
- ・ カメムシ類、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシ等の発生に注意し、登録農薬を散布する。

2 野 菜

(1) 野菜共通

(施設野菜)

- ・ 必要に応じてかん水を行う。かん水する時間は、気温が低下している早朝を中心に実施し、日中に補助かん水を実施するが、夕方には行わない。
- ・ 萎れの防止には、遮光カーテンの利用が有効であるが、過剰な遮光は、徒長や根の充実不足を招くので注意する。

(露地野菜)

- ・ 苗もの野菜（ブロッコリー等）で、適度な降雨を待って定植を遅らせる場合、苗の老化を防止するため追肥を行う。
- ・ アザミウマ類や、ハダニ類の発生が懸念されるため、登録農薬で適期に防除する。

(2) 夏秋なす

- 乾燥の影響で草勢低下が見られるため、農業用水からポンプアップなどで畦間のかん水も検討する。また、草勢回復のための追肥を行う。
- アザミウマ類、ハダニ類の発生が多くなるので適期防除を行う。

(3) さといも

- 乾燥の影響で、地上部の繁茂不足による、いもの肥大不良が懸念される。積極的なかん水を行い、草勢を保つ。

(4) いら（株養成中・夏いら）

- 株養成中のいらは、乾燥による生育遅延が懸念される。夏いらは、葉先の枯れが発生し、収量・品質の低下が懸念される。必要に応じたかん水を行うとともに、夏いらでは遮光カーテンを使用し葉先枯れを防止する。

3 果 樹

(1) 果樹共通

- 満開後日数、地色、食味等を確認しながら適期収穫を行うとともに、収穫物の品質管理を徹底する。
- かん水できる園は、積極的にかん水する。
- 草生園は草刈りを行い土壌水分の競合を防ぐ。刈り高はやや高めにする。
- 日焼け防止のため、主幹部や骨格枝、苗木の地上部（地際部から1 m部位まで）に炭酸カルシウム（クレフノン）を塗布する。
- ハダニ類の発生が多くなるので適期防除を行う。

4 花 き

(1) 花き共通

- 露地栽培では、必要に応じたかん水を行う。

5 病虫害対策

特に、ハダニ類、アブラムシ類など害虫が発生しやすくなるので、発生状況の把握に努め適期に防除を行う。